

学力向上アクションプラン(別府市)

目標及び指標

【目標】	
①基礎・基本の定着と、活用型学力の育成 ②児童生徒の家庭学習習慣の定着 ③児童生徒の読書習慣の定着	
達成指標	取組指標
①全国学力学習状況調査において ・小学校4項目で全国平均正答率を上回る ・中学校4項目で全国平均正答率を上回る 大分県学力定着状況調査において ・小学校6項目で偏差値50を上回る ・中学校8項目で偏差値50を上回る	各学校において、以下のPDCAサイクルによる補充指導の実施状況を年間2回確認する。 1 学級担任(教科担任)による実態把握(評価の際は、より客観的な評価問題を使用) 2 評価後は、すぐに新たな目標を設定し補充学習を実施 3 実施後は、補充学習の効果を評価 ※ 1～3と並行して、学習内容の定着が不十分であった要因に基いた授業改善
②全国学力・学習状況調査において 【小学校】 ・家庭学習時間が一日1時間以上70%以上 【中学校】 ・家庭学習時間が一日2時間以上50%以上	・学校運営協議会において、家庭または地域による家庭学習習慣の定着に向けた取組を設定する学校が100% ・別府市が作成した「家庭学習の手引き」を活用して、保護者と連携して家庭学習習慣の定着を推進する学校が100%
③全国学力・学習状況調査において 【小学校】 ・読書時間が週1時間以上(1日10分以上)70%以上 【中学校】 ・読書時間が週1時間以上(1日10分以上)60%以上	・朝読書の実施など読書時間を確保する取組を実施する学校が100%

行動計画

①「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

- 1 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
 「ねらいが明確で、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業」の構築を目指して以下の取組を実施する。
 ・『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業を目指した授業改善をテーマとして、教科の壁を超えた校内研究を推進する。
 ・管理職による、「ねらいが具体的であるか」「ねらいの達成につながる課題・まとめであるか」「児童生徒の解決の意欲と態度を生み出す課題であるか」の3点を視点とした重点的指導を推進する。
 ・研究主任研修会において、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業についての理解を促進する。
 ・指導主事が校内研究会等に参加し、『質の高い課題』と『適切なまとめ』に焦点を絞った指導を実施する。
 ・学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員の公開授業により、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業を解説する。
- 2 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 ・教科部会において、校内授業研究会や一人一実践の指導案審議を実施することで、若手教職員を育成するとともに、互いに教科指導力を磨き合う機会をつくる。
- 3 「生徒と共に創る授業」の推進
 ・各学校において、生徒による授業評価を実施し、その活用方法や成果と課題を、研究主任会等で交流し、各校における取組の推進に活かす。
 ・学びに向かう学習集団づくりを目指した各学校の取組を、研究主任会等で交流し、各校における取組の推進に活かす。

②小学校の授業改善の取組について

- 「ねらいが明確で、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業」の構築を目指して以下の取組を実施する。
- ・管理職による、「ねらいが具体的であるか」「ねらいの達成につながる課題・まとめであるか」「児童生徒の解決の意欲と態度を生み出す課題であるか」の3つを視点とした重点的指導を推進する。
 - ・研究主任研修会において、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業についての理解を促進する。
 - ・指導主事が校内研究会等に参加し、『質の高い課題』と『適切なまとめ』に焦点を絞った指導を実施する。
 - ・学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員の公開授業により、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業を解説する。

③家庭・地域と連携した学力向上の取組について

- 児童生徒の家庭学習習慣の定着に向けた取組み
- ・学校運営協議会を中心として、家庭・地域による家庭学習習慣の定着に向けた取組を設定・実施・評価・改善を行い、取組を充実させる。
 - ・「家庭学習の手引き」を活用して、保護者と連携して家庭学習習慣の定着を推進する。
- 児童生徒の読書習慣の定着に向けた取組み
- ・朝読書の実施など読書の時間を確保する取組を実施する。
- 放課後や土曜日の教育環境の充実
- ・年4～5回の土曜授業を実施し、学校における授業や地域における多様な学習、文化・スポーツ・体験活動等の機会の充実を図る。
 - ・年4～5回の土曜授業を実施し、保護者・地域に学校を公開する機会を増やし、家庭・地域と協働して児童生徒を育てる体制づくりを推進する。